

NAGANO善光寺よさこい よさこい演舞曲『切り火』

人生という旅路というものは、ほにやら、ほぎやらといろいろあるものでございますが
結局、最後には「ぽん」といくのでございます。

道中 どうか どうぞ ご無事で・・・(切り火)

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽんぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽんぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽん

ゆくて なにが 待ち受けても 茨道 踏んで

ゆくて 危険 待ちぶせても さあ歩きだそう 仏が呼ぶ

甲斐やよさこい よくきたなあ さあさみなさま 踊らにゃそんそん

越後よさこい よくきたなあ さあさみなさま 踊らにゃそんそん

富山よさこい よくきたなあ さあさみなさま 踊らにゃそんそん

加賀やよさこい よくきたなあ さあさみなさま 踊らにゃそんそん

信濃よさこい よくきたなあ さあさみなさま 踊らにゃそんそん

NAGANO よさこい よくきたなあ みんなで開こう新世界～！

帰らぬ 昨日を 捨て去りて

今ココロ ひとつ 重ねよう

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽんぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらったぽんぽん

ほにやらほぎやらた～ほぎやらった～ぽん

ゆくて なにが 待ち受けても 茨道 踏んで

ゆくて 危険 待ちぶせても さあ歩きだそう あなたが呼ぶ

さあ～さあ 行きましよ 極楽へ さあ 火の中 水の中
さあ～さあ 行きましよ 彼方まで さあ 危険が 待つ末は
さあ～さあ 行きましよ 極楽へ さあ 火の中 水の中
さあ～さあ 行きましよ 彼方まで さあ 茨を 踏む末は
さあ さあ さあ さあ (鐘の音 切り火・拍子木)

作曲 鮎澤貴秀

作詞 篠原正司

編曲 川上潤治／鮎澤貴秀

歌唱 葦木美咲

プロデュース 篠原正司

(掛け声 長野県、山梨県のよさこいチームのみなさん)

演舞曲「切り火」について

～歩き旅の果てに参る・舞いる心の世界～ 篠原正司 (作詞／プロデュース)

2009年御開帳の時、善光寺参りに関係する善光寺街道宿場町サミットそして長野朝日放送が放映した特別番組「善光寺御開帳スペシャルおらが善光寺へようこそ」にありがたいご縁をいただきました。このふたつの企画に触発された格好で善光寺街道を5日間かけ歩き御開帳参りをさせていただくこととなりました。歩いた理由はいくかありましたが、善光寺参りについていくつか知りたいことがありました。昔の人たちはなぜ歩いてまで善光寺に向かったのか…？七年に一度の盛儀、御開帳が開催される意味は？そこに宿るココロとは？(今もそのすべてがわかったわけではないのですが)

今でも御開帳期間中は 600 万人以上の善男善女が昔と変わらず善光寺を参拝します。なぜこんなにも多くの人たちが善光寺を参るのか？とても不思議です。そして5日間歩いて善光寺を参り、私が少なからず感じた心の世界。それをよさこい演舞の中に表現できればと思ったわけです。さて作曲家の鮎澤貴秀さんから来た音源を聴き、善光寺の歴史や営みのすべてを表現できるわけもなく作詞の難しさを痛く感じさせられました。その拳句には「曲をリピート再生しながら夢の中で考えてみよう！」ということにし、インスピレーションを待ちました。ありがたいことに夢の中で次第に言葉や世界が組み立てられ、おそらく40分～50分くらいの間に言葉が組みあがりました。よし出来たっ！と思った瞬間に飛び起き一気に書いたのが『切り火』の歌詞です。善光寺参りの心は現代社会に暮らす私たちにはなかなかわかりづらくなっています。それほど昔と今とは感覚が違い、昔は徒歩で、命がけの長旅です。その果てのお参りですから『切り火』は善光寺参りのココロを表現するひとつの鍵のようなものだと気がつかされたわけです。その昔、いろいろな場所で繰り広げられた、善光寺参りの陰日向にあるココロの風景をよさこい演舞をとおして、、、 みなさんにお伝え、映し出せば幸いです。